



新潟県中越大震災から10年 被災した各地で震災からの復興検証が始まっている。



小千谷市で開催された「市民ワークショップ～震災を乗り越え、よりよい小千谷をめざして～」
これからの小千谷のキャッチフレーズを考えることがテーマ。

中越メモリアル回廊情報紙 コリドール 第9号 目次

- 中越メモリアル回廊 イベントインフォメーション 各施設4～6月イベント情報
- シリーズ「私が案内いたします」やまこし復興交流館「おらたる」／川上 沙織
- 中越大震災から10年特別企画 ①「中越を語る100人」
丸山 公重さん（震災当時：小千谷市池ヶ原の区長さん）
畔上 純一郎氏さん（震災当時：長岡市青葉台3丁目 自主防災会 運営委員長）
佐藤 笑子さん（震災当時：小千谷市婦人防火クラブ会長）
水落 優さん（NPO法人くらしサポート越後川口代表）
- 中越大震災から10年特別企画 ② 震災復興アーカイブその1
平成19（2007）年2月に開催された「第1回地域復興交流会議」
- 防災学習研修ツアー募集中
- トピックス
新潟県防災教育プログラム始動／小千谷市真人地区「ザ・かまくら」

あれから10年、これからの10年

2014(平成26)年は、新潟県にとって節目の年です。1964(昭和39)年6月16日に発生した「新潟地震」から50年目、半世紀の時が流れています。当時、関東大震災以来、戦後最大の揺れを記録したと言われた「新潟地震」は、新潟市に未曾有の被害をもたらしています。また、火山噴火(水蒸気爆発)によって大きな被害となった「新潟焼山の噴火」は、1974(昭和49)年ですから、40年前の7月28日のことでした。

21世紀に入って間もない2004(平成16)年の7月には「新潟・福島豪雨」、いわゆる「7.13水害」に見舞われ、同じく、2004年10月23日、新潟県はあの「中越大震災」に襲われました。翌2005(平成17)年、中越地域は年末・年始と降り続く雪のために、地震に加え雪との闘いも強いられることとなったのです。あれから

10年の歳月が流れようとしています。

新潟県民は、不幸にも幾度となく大災害に遭遇していますが、その度に、それを乗り越え、しなやかに蘇ってきました。私たちの貴重な体験は、伝えるべく「教訓」として語り継がれ、「知見」として蓄積され、「防災安全立県・新潟」を確かなものとするはずです。

そして今、中越大震災の被災地では、この10年間の「経験」「教訓」を生かしながら、住民自ら新たな中山間地像を描き、持続可能な中山間地を獲得するための実践的な活動に移そうとしています。私たちは、その中山間地というフィールドを舞台に、地域の人々と共に歩み続けていきたいと考えています。

公益社団法人 中越防災安全推進機構
事務局長 山口 壽道

●中越メモリアル回廊 イベント インフォメーション

4月

イベント名	日時	内容	場所
新潟観光キャンペーン「うまさぎっしり新潟スタンプラリー」	3/15(土) ~6/30(月)	中越メモリアル回廊4施設が参加、各施設で其其クーポン特典があります。	【各館】
新潟県中越大震災から10年「今、未来へ伝えたいこと」キャラバン第1弾	4/15(火) ~20(日)	「復興した二十村郷へようこそ」魅力あふれる山間の伝統文化や味を紹介します。	新潟県立図書館正面玄関ロビー
きおくみらいの「ipad」情報検索アプリ新バージョン登場	4月中旬	今まで以上に使いやすく進化!	【きおくみらい】
防災そなえチャレンジ 2014春	3/24(月) ~4/6(日)	子ども向け防災イベント。3つのミッションに挑戦して防災グッズをゲット! 目指せ子供防災士	【そなえ館】
防災そなえチャレンジ 2014ゴールデンウィーク	4/26(土) ~5/6(火)	子ども向け防災イベント。3つのミッションに挑戦して防災グッズをゲット! 目指せ子供防災士	【そなえ館】
春のきずな茶会	4月未定 詳しくはホームページで	川口全地区対象のお茶会 地域の創作料理とミニイベントなど	【川口きずな館】

5月

イベント名	日時	内容	場所
山古志直売所まつり	5/3(祝)予定	地域の特産品等おらたる前広場にて販売する直売所まつり	おらたる前広場
パネル展「土砂災害ってなに？」	5/21(水) ～6/30(月)	土砂災害防止月間に合わせ、中越地域に起こりやすい土砂災害について紹介します。	【きおくみらい】
震央トレッキング(春)	5月 未定	春の三十三番めぐりトレッキング。震災の爪痕の見学なども	問い合わせ：川口きずな館
復幸マルシェ(出張出店)	5月 未定	アオーレ長岡での東日本支援イベント。川口サンダーバードが出店	アオーレ長岡

6月

イベント名	日時	内容	場所
第65回全国植樹祭	6/1(日)	皇室ご臨席によるお手植えなど(事前申込が必要です)	川口きずな館前広場
土砂災害防止月間展示	6月 詳細日程未定	砂防フィールドミュージアムと連携した、土砂災害について展示します	【おらたる】
パネル展「新潟地震50周年」	6/1(日) ～7/14(月)	今年で50周年を迎える新潟地震を「防災・減災新潟プロジェクト2014」と共にパネル展示。	【きおくみらい】
震災メモリアルポイント バスツアー	6/5(木) ※募集開始5月中旬	震災の爪跡を巡り、地元語り部さんより当時のお話を聞く日帰りミニバスツアー	【そなえ館】小千谷市内～長岡市小国地域
新潟県中越大震災から10年 「今、未来へ伝えたいこと」キャラバン 第2弾	6/21(土) ～7/6(日)	「新潟県中越大震災復興10年の軌跡」	新潟ふるさと村 アピール館、イベント 広場周辺
闘牛サミット開催記念写真展	6月8日～	牛のいる生活の写真を展示	【おらたる】
山古志の歴史を語る会	6月28日	今年は、南総里見八犬伝から読み解く山古志の歴史について学びます。	【おらたる】

詳しくは各施設にお問い合わせください。

- 長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」 TEL 0258-39-5525
- おぢや震災ミュージアム「そなえ館」 TEL 0258-89-7480
- 川口きずな館 TEL 0258-89-3620
- やまこし復興交流館「おらたる」 TEL 0258-41-1203

ホームページ：<http://c-marugoto.jp/>

●「私が案内いたします」

やまこし復興交流館「おらたる」の川上沙織です。

私は山古志出身で、当時は小学校6年生でした。兄は部活で、父母は仕事で家に帰ってきていなかったのが、無事が分かるまではとても不安でした。25日にヘリコプターで避難して、3人に会えた時はとてもうれしかったのを覚えています。今思えばヘリコプターでの避難や避難所、仮設住宅での生活は、普段経験できない貴重な体験だと思います。



先日、東日本の被災地へ視察に行き、同年代の人に現地をガイドして頂きました。想いがこもっていて、体験談に引き込まれました。私もガイドとしてたいへん勉強になりました。体験談を話すことによって、より山古志に興味を持っていただけるのであればもっと伝えていきたいと思えます。私もなにかをひとつでも心に残るような説明と、今の山古志にも興味を持ち、地域へ出かけていただけるきっかけが作れればと考えています。皆様のご来館をお待ちしております。

●中越大震災から10年 特別企画①「中越を語る100人」

中越メモリアル回廊の各施設では地元語り部さんによる講話が好評を得ています。10年を機に中越大震災の記憶を伝え続けるみなさまを「中越を語る100人」としてシリーズで紹介させていただきます。

Vol.001

きみしげ
丸山 公重さん 震災当時：小千谷市池ヶ原の区長

自称『私が町内の親方をやると災害が起きるような運命をもった男』なぜなら…。

①平成5年の大冷害、当時は農区長。減反で作った大豆などの収穫はゼロに近かった…。

②平成16年の見附・三条大水害、池ヶ原にも被害が…なんと蕎麦屋オープン前日に土砂崩れ発生！やむなくオープン断念…そして再度迎えた蕎麦屋のオープン2日目が中越大震災発生の日10月23日。

指定された避難所が被災し、農業用のビニールハウスを活用した避難生活の陣頭指揮を執ったのが丸山さんでした。住民400人、地域外の人約100人、いったい避難生活はどうなったのでしょうか！？

現在：地元そば粉を使った手打ちそばの店「雪蔵の里」店長として厨房で腕をふるっています。



丸山 公重さん

Vol.002

畔上 純一郎さん 震災当時：長岡市青葉台3丁目 自主防災会 運営委員長

畔上さんは、平成18年から長岡市が開校した「中越市民防災安全大学」の第1期生

として、中越地震の教訓をもとに日ごろの地域防災力強化のために

市民一人一人がどんな活動ができるのかを学ばれました。現在は、

安全大学の卒業生によって結成された「中越市民防災安全士会」の

会長として活動される一方で、ご自身の暮らす長岡市青葉台3丁目の防災委員としても活躍されています。

中越地震の後、長岡市青葉台や隣接する陽光台には全村避難した



畔上 純一郎さん

旧山古志村の方が暮らす仮設住宅が建設され、被災者を受け入れるため、町内会では交流会や畑の共同作業などが催されました。

平成23（2011）年の東日本大震災発生直後も避難者を受け入れ、中越地震での経験を活かし、真心のこもった対応を心がけ活動されてきました。

青葉台3丁目では自主防災会の活動も活発で、「日ごろの近所づきあい」「要援護者への対応」など積極的に取り組んでいます。町内の中学生にもサポーターとして加わってもらい、お揃いのキャップを配り気持ちを一つに地域を愛し、楽しみながら活動をされています。

Vol.003 佐藤 笑子さん 震災当時：小千谷市婦人防火クラブ会長

笑子さんに初めて会う人も「どこかで以前お会いしたことが…」そんな親しみを感じる小千谷の肝っ玉母さん。笑子さんが話す内容は娘に、孫に、地域を守る皆さんに伝えたい教訓です。災害時に耳にした子どもの「ミネラルウォーターがないと嫌！」の言葉。ものの大切さ、ありがたさを子どもに教えなければ…。そして日中、若い人は職場の復旧へ、家にはお年寄りだけ、『向こう三軒両隣の絆、日頃からの声掛けが一番大切』と語ります。

地域密着をモットーに合言葉は「自分たちの地域からは絶対に火事を出さない！」。現在も毎週火曜日に防火パトロールなど、地域の火災予防に積極的に取り組んでいます。



佐藤 笑子さん

現在、新潟県女性防火クラブ連絡会 会長。

平成24年安全功労者 総務大臣表彰

Vol.004 水落 優氏

川口地域の将来を担う地域づくりNPO法人くらしサポート越後川口の代表として地域づくり活動の扇の要として活躍される一方、会社員であり、兼業農家でもあり、本業だけでも多忙な生活を送られているにもかかわらず、地域の重要会議や交流イベントなどでひとたび声がかかれば、会社を早退してでも参加する驚異的なフットワークをお持ちです。

震災からの復興過程で地域のこれからを考え、支援していく任意団体REN（れん）の代表を経て、地域に根差した中間支援組織を整備する必要性から、組織化（NPO法人）の設立に尽力。川口地域の復興と街づくり活動の芽生えから現在に至るまでの動き、川口地域そのものが抱える課題と解決に向けた取り組みをご自身のこれまでの経験と多くのデータを駆使しながら紹介します。

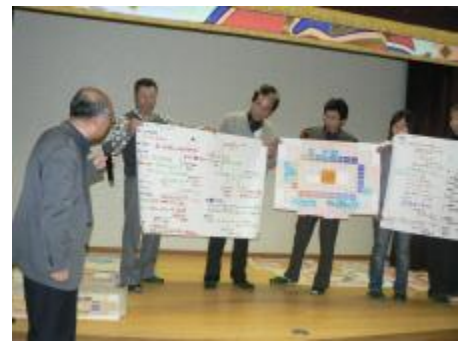
東日本大震災の被災地交流、懇談会等への参加も多数あり、来訪者の聞きたいことにアジャストした有意義な交流時間を提供可能。奥様とのコラボレートによる地物の食材を使った創作料理を織り交ぜた交流会などのアレンジも可能です。



水落 優さん

●中越大震災から10年特別企画 ② 震災復興アーカイブ その1

平成19(2007)年2月に開催された「第1回地域復興交流会議」約40団体、150人が集まったこの会議の目的のひとつは各地で生まれた復興への動きをより大きな動きにしていこうということ。ふたつめは、それぞれの活動をより活発化させるために交流を深めること。他のグループの活動を聞き、驚いた部分、新しい視点を投げかけられた部分がいろいろあったようだ。夜の親睦会になるとさらに様々な交流の糸が結ばれる姿を見ることができた。まさに、地域復興への本格的なスタートと思われた。その後、この交流会議はテーマや場所を替え、様々な進化を遂げ計5回開催された。震災10年を前にこの3月に久々に第6回目が行われる。どんなお話が聞けるのか楽しみである。



「フッコウスゴロク」
地域の将来をスゴロクになぞらえるグループワークが行われた。

●中越大震災の教訓から学ぶ防災学習研修ツアー募集中

「中越メモリアル回廊」が開館して2年、中越大震災の経験を活かした防災研修には全国から多くの自主防災組織、町内会のみなさまにご活用いただいております。

この度、地域防災力強化の入門的な防災学習研修1日コースを中越大震災の被災エリアに、より理解しやすく設定いたしました。ご利用にあたってはご担当者様と十分に打ち合わせをさせていただいた上で実施させていただきますのでお気軽にお問い合わせください。

お問合せは おぢや震災ミュージアム「そなえ館」まで
TEL: 0258-89-7480 FAX: 0258-89-7485
メール: sonae@cosss.jp



緊急時、リーダーはどう判断? グループワーク

【防災学習研修ツアーモデルコース例】

10:00 長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」

新潟県中越大震災の概要を知る。

11:30 やまこし復興交流館「おらたる」

被災地の現状を知る。

話題の「地形模型シアター」は圧巻!

12:00 ご昼食

13:30 おぢや震災ミュージアム「そなえ館」

震災発生から復旧までの様子をスタッフが館内を案内。地震の体験談も交えて各コーナーを案内します。

14:30 語り部講話 地元関係者による「語り部講話」

震災当時町内会長をされていた方が講師となります。

15:30 終了 (昼食・移動時間を含め約5時間半が目安となります)



地元語り部さんから当時の話を聞く

●コリドール トピックス

▲学校現場での防災教育プログラム本格始動へ

「新潟県防災教育プログラム」がこのほど完成しました。このプログラムは県内で想定される6つの災害 ①津波被害 ②地震被害 ③洪水被害 ④土砂災害 ⑤雪害 ⑥原子力災害を対象とし、防災教育カリキュラム・指導用副読本（手引書）、授業に組み込むワークシート、授業に活用できる映像・画像コンテンツ等の資料集などで、県内すべての小中学校に資料が配布されました。今後はこの配布資料を基に学校現場での防災教育の推進が図られる予定です。



配布された資料

▲小千谷市真人地区で「ザ・かまくら」が開催されました。

今年で13回目を数える雪遊びイベント「ザ・かまくら」が2月8日（土）に行われました。このイベントは地元の手作りイベント、豪雪を遊雪として冬を満喫できるイベントです。

今年も東京都墨田区京島の第四吾孺小学校の児童ら28名が招待され、地元の子どもたちと雪遊びを楽しんでいました。11年前に真人町の方が墨田区の「すみだまつり」に参加したことがきっかけで第四吾孺小学校と旧真人小学校（昨年度廃校）の交流が始まり、毎年両校の児童がお互いの地域を訪問し合っています。児童が卒業しまっても、母校が廃校になってもPTAのOBとして交流を続けているそうです。このような交流事業をコーディネートしているのが真人地区の地域復興支援員さん。

昨年11月、墨田区で行われた防災交流会にそなえ館スタッフがお邪魔して、中越大震災以降に行われている地域のさまざまな防災活動やそなえ館の取り組みについて紹介させていただくなど地域間交流に一役買いました。

そして、今回のイベントにはそなえ館から防災意識向上のための防災啓発パネル展示や防災クロスワードパズルなどでイベントに参加させていただきました。

翌日、第四吾孺小学校のお友達がそなえ館を訪れ、中越大震災の被害状況や避難生活の様子などを見学させていただきました。

より多くの方に中越大震災の体験や教訓を知っていただくため、地域外への情報発信を今後も積極的に行っていきます。



大きな「かまくら」が登場



防災クイズに挑戦中！

●編集後記

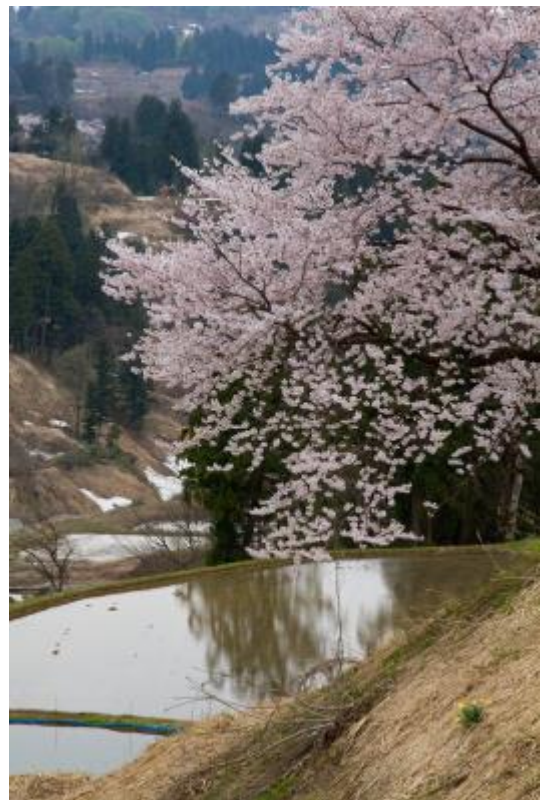
早いもので、あと7ヶ月であの日から10年を迎えます。

中越メモリアル回廊推進協議会では10年の節目の年に改めて伝えるべき震災の記憶と教訓を整理し、情報発信することを現在最優先と考え、この4月より県内外でキャラバンの周年記念の企画展を計画しております。

また、「中越を語る100人」と銘打って、震災の記憶を語れる方の取材を行っております。自薦他薦問いませんので「この人の話は聞いた方がいいよ!」という方がいらっしゃいましたらご紹介、ご一報いただければ幸いです。

■ふるさとの風景「山里の桜」

山古志のアルパカ牧場が、賑わっています。
観光シーズンの土日になると、あの愛らしい姿を求め、牧場付近が大渋滞になるほどです。
その牧場入口付近に咲くソメイヨシノ。
数メートルを超える豪雪に耐え、
4月下旬に満開を迎えます。
(長岡市山古志虫亀)



最後までお読みいただきましてありがとうございました。

次号 コリドール第10号は 平成26(2014)年6月23日発行の予定です。

発行元：中越メモリアル回廊推進協議会（長岡市・小千谷市・公益社団法人中越防災安全推進機構）

事務局 公益社団法人中越防災安全推進機構 震災アーカイブス・メモリアルセンター

長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」

〒940-0062 新潟県長岡市大手通2-6 フェニックス大手イースト2階

TEL 0258-39-5525 FAX 0258-39-5526 E-mail memorial@cosss.jp

コリドール 第9号 編集委員 山口・筑波・川上・赤塚・山崎・和田・細貝・松本